

[板橋区長賞]

# 大好きだった祖父が教えてくれたこと

板橋第一中学校 9年

秦 ひより

私の祖父は五年前にアルツハイマーという病気になりました。厳格で自分の好きな事を楽しみながら過ごしているような人でした。当時は同じマンションに住んでいたの、生まれた時からとても可愛いがってもらいました。幼稚園、小学校から帰るとエントランスで植木を手入れしてる祖父が出迎えてくれる。口数は少ないけれど優しい祖父です。私たちがマンションを出て少ししたら祖父がアルツハイマーになり、洋服を着る事も食べることも、生活に必要なことが一人で出来なくなってしまいました。そんな祖父と祖母と一緒に暮らせるように色々な人が力を貸してくれました。主治医の先生、ケアマネ、訪問ナース、デイサービスの人達。そして祖父の暮らしを支えてくれたのは介護保険サービスでした。介護保険は税金でまかなわれています。介護保険制度とは、介護を必要とする方に費用を給付し、適切なサービスを受けられるようにサポートする保険制度です。自立支援や介護する家族の負担軽減を目的としています。この制度のおかげで要介護認定、または要支援認定を受けたときに介護サービスを受けられるようになりました。介護保険制度は、全国の自治体が運営主体となって納められた保険料と税金で運営されています。四十歳以上になると介護保険の加入が義務付けられ、保険料を納付することになり、被保険者としてサービスを受けるには自治体の窓口で手続きをして受給できるかどうか審査を受ける必要があります。認定されると一割から三割の自己負担で介護サービスを受けることができます。

私の母も介護の仕事をしているので、よく祖父のお風呂の手伝いや寝る支度のお世話をしに通っていました。私のことは分からなくなっちゃったけれど、病気になってからの祖父はとてかわい祖父でいてくれたので私はずっと大好きでいられました。

当たり前元気な時は、税金の恩恵を受けていることに気づくことが難しいかもしれません。でも助けてもらう立場になり、初めてこんな多くの税によって私たちの生活は守られているんだと知ることができました。祖父が自分の事を自分ですることが難しくなっても本当に沢山のサポートのおかげで祖父と一緒にいることができました。病気になった時、生活に困った時、一人で抱えこまなくてもいいように日本では社会保障という私たちを守ってくれるものがあります。祖父は今年のはじめに亡くなってしまったけど、祖父が自分の身体を犠牲にして教えてくれた様々なことを忘れずに、困っている誰かのために私たちの税金が使われていることや自分、そして大切な人がいつかお世話になるかもしれないことを忘れずに、自分で生活することが出来なくなった人も安心して生活でき、生きていける制度があることに感謝して、私も一生懸命に働いて世の中の役に立つ納税できる人になりたいです。